

鯉淵学園の思い出

今回の鯉淵学園の思い出は、加藤 整さん(10期生)に引き続き書いていただきました。毎号のように鯉淵学園時代の思い出を詳しく書いていただき心より感謝申し上げます。

月刊誌「村」の発刊

鯉淵学園の前身である高等農事講習所が、月刊誌「村」を発刊したことをご存じでしょうか。『鯉淵学園二十年史』には次のように記されています。

「同年(昭和21年8月)より、所内に『村』刊行会を設け、農村文化の向上に寄与する目的をもって月刊誌『村』を刊行することになった。毎号の表紙は早川孝太郎講師の筆になり、内容は農村関係随筆や農業技術の解説を中心にしたものであった」と。

創刊号に掲載された「発刊の辞」には、「昭和の農業恐慌に努力した我々は、一倍の努力を以って今日の食糧危機突破に邁進せねばならぬ。そしてそれには高き文化と、熱烈なる人類愛と、旺盛なる責任感、食糧確保に必要な科学技術の裏付けが絶対必要である。我等の『村』が再生の所以もここにある」とあります。この「再生」と言うのは、戦前農村更生協会から発行されていた月刊誌『村』を指していることは間違いなく、編集に当たられた人の中にもこれに関係された方がおられました。

しかし、執筆者を見ると文化的要素の強いものを感じます。こんな人の原稿がよくとれたな、と思うものもありますが、これは恐らく小出学園長の人脈によるものでしょう。例えば次のような方々です。

牧野富太郎(植物学)……ブドウ、地獄虫、セロリー、スマイレの花は無駄に咲く、ジャガイモ、イタチハギ、陰火を見た回顧

柳田国男(民俗学)……苗忌竹の話

矢内原忠雄(後に東大総長)……人の復興と国の復興

賀川豊彦(宗教家)……自然を通じて神を観る

大賀一郎(ハス研究家)……観蓮節

今和次郎(民俗学)……農家住宅が汚いわけ

東畑精一(東大教授)……食糧問題に就いて

武者小路実篤(作家)……板倉勝重の話

中谷宇吉郎(物理学)……農業の科学化

柳 宗悦(民芸家)……津軽の「づぐり」



小出満二(所長)……新憲法の成立、戦争放棄、国際連合、総選挙、郵便制度、新しい政治の発足、公開討論、アメリカ憲法の成立、農業教育に関する一事、農業協同組合、聖地パレスチナ

早川孝太郎(講師)……農民と狸、刈上げの夜のこと、随想二・三、奥羽手倉の番楽、猿の話、農村と新協力体制、かがしの持つ謎、カガセ・オドロカシ、占有の標示法、表紙絵(全冊)

石橋幸雄(教授)……日本農村の前途、「開拓」推進の前にあるもの

小出詞子……サンバヂタの思い出「猫の誕生記」しかし、残念なことに23年3月に廃刊、わずかに13号を発行したに止まりました。『学園二十年史』には、「原稿が意の如く集まらないことや販売網がなくて多くの読者を護ることが出来なかったことなどで、二十三年三月号をもって廃刊の止むなきに至った」と記されています。

廃刊後は「鯉淵学園通信」がそれに代わって情報発信の機能を果たすことになったようですが、続いていたらどんなものになっていたか、興味がわきます。

加藤 整(10期生)

特別企画

市議会議員岡本さんに聞く

豊岡市清冷寺にお住まいの岡本昭治さん(31期生)が昨年10月22日の豊岡市議会議員選挙で当選され、約1年が経過いたしました。その岡本さんの活動状況を編集者がお聞きしました。



(編集者)

議員になられての率直なご感想をお聞かせください。

(岡本さん)

議員になり、すべてが初めての内容であったため、対応に苦慮する場面が多くありました。特に、議場における一般質問の内容について、漠然とした内容は分かっている、その根拠となる情報を正確におさえないと質問が軽いものになってしまい、訴える力はそこにはありません。また、市議会議員としての力量や資質が疑われることになっていくと私は考えています。

「議会質問をなんぼ頑張っても票は増えない」と言う言葉を聞いたことがあります。市民からの請願や陳情がある場合は別として、議会の動きは閉ざされたなかでのことかもしれませんが、大切な役割を担っていると考えています。今後は、できるだけ多くの機会をいただき、発言、発信できるよう頑張りたいと思っています。

(編集者)

どのような委員会に所属されていますか。また、その委員会はどのようなことをするところですか。

(岡本さん)

委員会は常任委員会と特別委員会があり、任期は1年です。改選は11月1日に行われます。当選1年目は、常任委員会は「文教民生常任委員会」、特別委員会は「人口減少対策等調査特別委員会」でした。11月1日に行われた改選により、常任委員会は「建設経済常任委員会」、特別委員会は「防災対策調査特別委員会」になりました。建設経済常任委員会では、経済政策、商工政策、移住定住施策、観光政策、農林水産業政策、コウノトリ野生復帰を中心とした環境政策、市道・橋・交通などを中心とした都市整備政策などを議論します。防災対策調査特別委員会では、防災減災政策、上下水道政策を中心に議論します。

(編集者)

現在、どのような課題に取り組んでおられますか。

(岡本さん)

気候変動により、今生きている人々が過去に経験したことのないほどの台風、豪雨が発生しています。豊岡市においては、平成16年の台風23号により甚大な被害を受けました。豊岡市の地形が大きな原因となっています。その後も規模の違いはありますが多くの被害が発生しています。また、放置しておく大きな被害につながる危険箇所が多数あります。現在は、その現状を確認し地域の方々と共に改善要望を上げること、そしてその要望が実施されるよう監視していくことに取り組んでいます。

(編集者)

今後、特に力を入れたいと考えておられることはありますか。

(岡本さん)

防災減災政策、但馬牛の振興対策を中心とした農業政策、コウノトリ野生復帰を中心とした環境政策および靴を中心とした地場産業の振興政策に取り組んでいきたいと考えています。

(編集者)

議員として日々活動される中で、大切にされていることは何ですか。

(岡本さん)

ご要望をいただいたら、すみやかに現場や情報を確認すること、そしてその内容を要望者にお伝えすることを

第一義と考えています。

(編集者)

最後に一言、議員としての決意と抱負をお願いします。

(岡本さん)

市議会議員当選直後、「新人議員の1年目は、多くを語らずじっくり構えて議会や他の議員の動きを見ていなさい」と言われたことがあります。

1年が過ぎました。初心を忘れず、みなさまのお役に立てることを喜びに感じながら、より積極的に動いて行きたいと考えています。

“あの人は今” 同窓生紹介

今回は、戸田寮一さん(23期生)、山根正行さん(28期生)、新田義孝さん(31期生)を取材させていただきました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

ゴルフと山菜採りが楽しみ



自宅前の庭園で戸田さん

木々の葉が色づき始めた10月23日、豊岡市上佐野にお住まいの戸田寮一さん(23期生)をお訪ねしました。午前中はどんよりとした曇り空でしたが、午後からは秋雨が降り出しあいにくの天候となりました。戸田さんには、2年ほど前に取材を依頼しておりましたが、腰の病気が理由で延期となっていました。今回、ご快諾いただきましたので、取材をさせていただきました。

向学心に燃えて入学

戸田さんは昭和41年に鯉淵学園畜産科(19名)に入学されました。鯉淵学園に入った動機は、「長男なので農業を継いでほしいとお祖父さんにすすめられ、豊岡農業高校に入った。しかし高校を卒業しただけでは農業はできないと考え、更に勉強するため鯉淵学園に入学した」

と向学心に燃えていた当時のことを話されていました。入学式には、森友敏則さん、田中久隆さん、大字路子さんと共に出席され、田中義治さんとはその入学式で初めて知ったそうです。そして入寮して学生生活が始まりましたが、送ったはずの荷物が寮に届かず、不便な生活が1か月間続いたそうです。結局、その荷物は品川駅で保管されていたと懐かしく話されていました。

入院のハンディを乗り越え試験に合格

寮生活では1年目に東寮、西寮を経験し、2年目は筑紫寮に入ったそうです。寮生が20名で和気藹々の楽しい生活を送られたそうですが、食堂で食事時に出される納豆が苦手で食べられなかったと話されていました。また1年生の時、先輩から生活態度、言葉遣いが悪いなどと厳しく叱咤されたことが懐かしい思い出と話されていました。自治会活動では、文化部（音楽班）に入り学園祭で発表したり、またクラブ活動では野球部に少しだけ入っていたそうです。

特に懐かしい思い出として記憶に残っていることは、「昭和42年、2年生だった夏に腹膜炎で40日間、友部の病院に入院し手術を受けた。父親も郷里から駆けつけてくれた。無事退院したけれど、10日後に2学期末試験を控えていた。友人にノートを借り必死に勉強し、留年覚悟で試験に臨んだところ何とか合格し、追試を受けることがなかった。これは砂田先生のおかげである」と当時を振り返り話されていました。また、卒業アルバム編集委員（7名）として、学生生活2年間の思い出をまとめ上げたことが懐かしいそうです。

大変だった農協合併の財務調整

昭和43年に鯉洲学園を卒業し、農業改良普及員の資格を取得していたので、当初、兵庫県庁に就職しようと思っていたそうです。しかし、兵庫県で農業改良普及員の採用がなく、当時「朝来郡農協」から職員募集があったため、当農協に就職されたそうです。最初は営農部営農課に営農指導員として配属され、次に支店を経験して営農部畜産課、債権回収を担当する監理対策部に異動となり、昭和59年から平成5年まで牛乳処理工場の次長、工場長を歴任されました。その翌年から平成9年まで支店長、平成10年から総務部総務課長、管理部長として、当時近隣4農協による合併推進協議会管理部会で財務等合併諸問題の調整役を任命され、新生「たじま農協」（平成13年4月発足）の設立に大変尽力されました。合併後、平成16年まで、「たじま農協和田山支店」の支店長、その後「たじま農協」の子会社である「株式会社ジェイエイサポート」（相続サポート、不動産の売買、有料道路料金収受、空家管理、墓地清掃等を業務）に入社して、平成19年から平成27年まで取締役専務として組合員や地域住民の快適な生活づくりに貢献されました。そして、平成27年6月に「株式会社ジェイエイサポート」を退職されました。

有料道路の料金収受業務を農協が受託

農協に勤務されていた時、最も印象に残っている出来事をお聞きしました。戸田さんは、「合併前の旧朝来郡農協の総務課長時代のことであるが、平成12年5月に開通した播但連絡道路北区间（生野～和田山）の料金収受業務について、兵庫県道路公社との交渉を幾度となく行った結果、農協にその業務の受託が認められたことである」と当時を振り返り話されていました。また、次に印象に残っていることとして、「平成14年、和田山支店長だった時に、部下である渉外担当者が組合員の定期貯金を解約し約2,000万円を横領した。その金額は本人が返済し、組合員には迷惑をかけなかったが、支店長として管理責任を問われ、大変苦しい思いをしたことがあった」と話されていました。

今は菩提寺の筆頭総代（護持会長）を

戸田さんに地域社会での活動についてお聞きしました。地元上佐野の区長を平成10年から通算6年間務められました。そして、神社総代を3年、そのほか土地改良組合役員、但馬空港建設役員などを務めるなど、地区のリーダーとして活躍されました。また、平成29年の11月に念願だった上佐野営農組合（構成員30戸、規模7ha）を立ち上げ、監事として1年間、組合運営や稲作づくりを指導されたそうです。現在の役回りは、菩提寺である法養山勝妙寺（檀信徒数214人）の総代と平成27年から護持会長を務められています。地区内の付き合いは、すぐ近くに住んでおられる息子さんと交代されているそうです。平成29年から子供安全グループに入られ、月曜日から金曜日まで小学生の登校時の見守りをおこなっておられるそうです。

春は山菜採りが楽しみ

趣味はゴルフで、ゴルフ同好会（地区会員16人）が開催する年間4回のコンペに参加するのが楽しみだそうです。また、戸田さんは、以前から脊柱管狭窄症を患っておられ、平成28年7月25日に入院、8月1日に手術、その後のリハビリで歩けるまで回復され、9月3日に退院されたそうです。今では元気になられ、奥さんと2人で弁当を持って、春は山菜（ぜんまい、わらび、竹のこ、ふき）採りに県内や京都府の山奥に行くのが楽しみだと話されていました。ご自身の健康管理にも気をつけられ、毎日5,000歩以上の「歩キング」を実施されているそうです。

寮生活で培った絆は別格

鯉洲学園はどんな学校でしたかとお聞きしました。戸田さんは「2年間という短い寮生活であったが、絆の深さは別格だ。卒業後、一度も行っていないので、近いうちに行ってみたい」と話されていました。

また、同窓会についてもお聞きしました。「50年経った今でも2年に一度の同窓会に出席するのが楽しみである」と話され、兵庫県同窓会支部だよりについては「毎

回楽しみに読んでいます。人の世話をするのは大変なことである。できる限りのことは協力しなければならぬ」と有り難いお言葉をいただきました。戸田さんから「たじま農協」の本店が旧豊岡南高等学校の校舎に移転したとお聞きしましたので、取材が終わってからその場所まで案内していただきました。短時間の取材でしたが、ご協力有り難うございました。戸田さんがいつまでもお元気で活躍されることをお祈りいたします。

悔いのない楽しい人生を



円山応挙が描いた襖絵を背景に山根さん

台風が過ぎ去った10月2日、オレンジ色の花から甘い香りを漂わせる金木犀(きんもくせい)を車窓から見ながら香美町村岡区黒田にお住まいの山根正行さん(28期生)をお訪ねしました。国道9号線を走り但馬トンネルを抜けて、しばらく車を走らせると山根さんのご自宅に着きました。少しの時間待っていると田圃から帰ってこられました。山根さんは、開口一番、鯉淵学園を卒業してから40数年経過し、学生時代のことは記憶が薄れていることもあると言いながら私の質問に答えていただきました。

先生、友人と語り合った学生時代

山根さんは、養父市八鹿町の八鹿高校を卒業後、昭和46年に鯉淵学園農業科畜産コースに入学されました。入学の動機をお聞きすると、農業関係の雑誌に鯉淵学園の入学案内をした記事が載っていて、この記事を見たのがきっかけだそうです。また父親が農業(水稻、養蚕)をしながら、地元農協の理事をしていたことも入学した原因の一つだそうです。

学生時代に大変お世話になった恩師は、高橋先生と藤田先生だそうで、その先生たちと来賓宿舎で色々語り合ったことや、友人と暇があれば酒を飲み大いに語り合ったこと、そして学生達からマドンナと慕われていた女子学生と毎週のように農場実習で共に働いたことが、忘

れられない懐かしい思い出であると話されていました。特別研究では和牛に関することを調査研究し、農家実習で研究テーマが和牛から乳牛に代わったこともあったが、卒業論文は和牛についてとりまとめたそうです。また、忘れられない出来事としては、「藤田先生の講義で鶏と豚の屠殺方法を学んだ実習レポートの作成にとっても苦労した」と当時を振り返り話されていました。

繁殖和牛経営から採種組合職員に

昭和49年に鯉淵学園を卒業後、学園で学んだ畜産技術を活かし、サラリーマン並みの収入を得るために、町からの補助金を活用し繁殖和牛経営を始められました。また、毎年10月から12月末までの3か月間、村岡採種組合に季節的な臨時職員として勤められていました。昭和62年の厳しい畜産情勢を踏まえ、当時村岡採種組合の組合長だった父親の強い勧めで、思い切って繁殖和牛経営を廃業して村岡採種組合の専属職員になりました。平成元年には当組合の種子調整オペレーター、平成13年は副組合長となり、現在は当組合の会計の仕事と農業共済組合の共済長として活躍されています。また、すぐ近くにハチ北スキー場があり、平成27年までの冬の期間、このスキー場で従業員として働いておられたそうです。

現在は水稻、野菜、椎茸栽培にも取り組む

水稻や野菜の栽培についてお聞きすると、自宅から約3km離れた兎和野高原に農地があり、この農地で水稻(2.3ha)を栽培し、積雪で栽培できない期間を除き、人参(7a)、ブロッコリー(7a)、葱(8a)、さつまいも(紅はるか)(5a)、じゃがいも(3a)、小豆(5a)のほか、大根、白菜、春菊、野沢菜、水菜などを11a栽培しているそうです。椎茸は600~800本を原木栽培し、将来は専用のハウスを設置する予定と話されていました。

栽培した農産物の主な出荷先は、兵庫県青年洋上大学で活動していたときに知り合った全国の友人たちとその知人に農産物を宅配便で送り、残りは「道の駅村岡ファームガーデン」に出荷されているそうです。

婦人会を対象に野菜づくりの勉強会を開く

地域社会への貢献活動では、集落・町・郡で役職を担当し、取り組んでおられますが、そのほかに地元婦人会の会員を対象に野菜づくりの勉強会を自宅で開き、その講師を務められているそうです。勉強会に参加した婦人会の会員から「野菜づくりを教えてもらったとおりにすると立派な野菜ができた」という感謝の声を聞くとこれからは頑張ろうという気持ちになるそうです。また、今後の生活設計をお聞きすると、「水稻栽培を柱に野菜、椎茸などで生計を立てていきたい」と話されていました。

学園の特徴を全国にもっとPRを

山根さんにとって鯉淵学園はどんな学校でしたかと

質問すると、「学生が全国各地から集まっているので、多くの友人ができた。卒業後はその友人宅に行ったり、またこちらに来てもらったりして交流を深めている」と鯉淵学園の学生だからこそその良さを話されていました。また、「最近、学生が集まらないと聞いているが、全国の高等学校に鯉淵学園の良さをもっとPRすべきではないのか。例えば公的資格が取得できるメリットをもっと打ち出すべきである」と学園に対して提案されていました。そして、山根さんは今の学生諸君が通学、寮生活を選択できることに対して「学生時代は人と人とのふれあいが大切である。昔のように全寮制に戻すべきではないだろうか」と話されていました。

悔いのない日々を送ろう

最後に、山根さんから28期の同期生に「我々は65才を過ぎ高齢者の仲間入りをした。これからの人生は楽しく、悔いのない日々を送りましょう」とメッセージがありました。取材が終わり帰り際に、襖絵を見て帰ってくださいというお言葉に甘えて、奥の座敷に入ると有名な円山応挙の描いた立派な襖絵にとっても驚き、しばらくの間、見事な襖絵に見とれていました。香美町香住区の真言宗大乘寺には、江戸中期の画家円山応挙やその一門の画家たちの襖絵がたくさん展示されているそうです。ぜひ訪れたいものです。山根さん、いつまでもお元気で活躍されますことをご期待申し上げます。

親子で肉用牛繁殖経営を



牛舎内で二人並んで

11月30日、豊岡市中郷にお住まいの新田義孝さん(31期生)をお訪ねしました。第4号支部だよりの取材で平成26年3月、新田さんにお出会いして以来ですが、その時に新田さんが近い将来、息子さんが新規就農されることや、そのために繁殖牛の増頭、牛舎・堆肥舎を拡大整備するという計画を話してくださいました。今回、お忙しい新田さんにご無理を言い、息子さんとともに取材をさせていただきました。

牛舎が平成27年3月に完成

新しい牛舎は、平成26年度補助事業(事業費総額5,500万円のうち自己資本1,000万円、計画50頭)を活用し、牛舎600㎡、堆肥舎180㎡の規模で平成27年3月に完成したそうです。現在の肉用牛繁殖経営の状況をお聞きすると、新田さんは「訪日外国人旅行者に人気の神戸ビーフが価格高騰し、それに後押しされて子牛価格の高止まりが続き、市場価格は最近大変よい傾向だ。我が家では平成31年度に40頭を市場に出荷していきたい」と話されていました。

息子さんと二人で経営

息子さんの拓樹さんは、滋賀大学の経済学部で金融や財務などを専攻され、将来は金融機関などに就職することを考えておられたそうですが、肉用牛繁殖経営に魅力を感じ、卒業と同時にその家業に従事されたそうです。最初は見習いで新田さんが肉用牛繁殖経営の基礎を教えられたそうですが、今では経営者として独り立ちできるまでになられたそうです。仕事上の役割をお聞きすると「新田さんが出荷子牛の飼育管理と除糞、息子が親牛の飼育管理、病気の治療は一緒で行っている」とそれぞれ分担して作業をされておられます。最後にお二人の目標をお聞きすると「今より効率の良い肉用牛繁殖経営を目指したい。いずれ牛を放牧できる牧場をつくりたい。またパートタイマーを雇用し、休日をつくりたい」と笑顔で話されていました。最後に新田さんは「今は二人で経営している。あと2年で年金がもらえるので、その時に息子に経営を譲りたい」と嬉しそうに話されていました。新田さん、いつまでもお元気で活躍されることをお祈りいたします。



牛舎の外観



堆肥舎



牛舎内で

同期会の情報

同期会の開催内容を毎回掲載しています。最新の同期会情報があれば編集者までご連絡ください。

別府温泉で26期会開く



ホテル両築別邸で記念写真

鯉淵学園 26 期会が平成 30 年 11 月 12 日（月）と 13 日（火）に大分県・別府市のホテル両築別邸で開催され、本県から 1 名が参加しました。当日の参加者は全国から 41 名（男性 31 名、女性 10 名）、うち夫婦参加が 4 組あり、家族的な雰囲気の中で寛ぐことができました。この会は 3 年ごとに開かれているもので、今回は九州地区の同期生が世話人を引き受け開催されました。

初日は同期会の行事として、物故者への黙祷から始まり、世話人代表挨拶、来賓挨拶、参加者全員が紹介されました。その後の協議・報告事項では、前回開催地からの挨拶、次回開催地の協議に移りました。協議の結果、次回開催地は、東北地区・山形県とし、開催年を 1 年後に決定しました。その後、休憩・入浴をして、懇親会が始まる前に記念撮影をしました。懇親会では、時間が経つのも忘れて、学生時代の思い出話や卒業後の仕事や家族、老後の話などで笑い声が絶えませんでした。恒例の寮歌合唱では、女性陣のリードのもと、全員が肩を組み歌いました。最後は、次回開催地の山形県での再会を願い、万歳三唱で懇親会を締めました。

翌日は希望者だけで湯布院行き、紅葉が映える金鱗湖などを散策しました。その後、昼食を食べ解散となりましたが、参加者は 1 年後に開催される東北地区・山形県での再会を約束して別れました。

なお、26 期会開催の前日に農協科特別研究グループ 3 名が当時同じ特研グループのメンバーだった前田和海さん（平成 28 年 10 月死去）の供養に有志 4 名とともに、長崎県雲仙市の親族宅に行きました。その日は、菩提寺の住職や親族の方と故人を偲ぶ懐かしい話をさせていただきました。前田さんのご冥福を慎んでお祈りいたします。

兵庫県支部会費納入者

平成 30 年 6 月 21 日から平成 30 年 9 月 27 日の期間で兵庫県支部会費（1 名 1,000 円）を納入していただいた同窓生（50 名）を入金順に掲載しました（敬称略）。

大変ご協力ありがとうございました。なお、同窓生の皆様からの会費は、支部活動経費として有効に活用させていただいております。今後とも引き続きご協力・ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

奥山隆治（4 期生）、甲谷克己（21 期生）、加藤 整（10 期生）、加藤定子（11 期生）、長峰年正（19 期生）、小島好文（11 期生）、武久正篤（28 期生）、辻 伴子（27 期生）、大林幸子（25 期生）、田中義治（23 期生）、出店利彦（19 期生）、橋本 篤（31 期生）、田中智巳（36 期生）、高見康彦（44 期生）、鞍田三穂（13 期生）、福井寛行（26 期生）、岩本佐知子（20 期生）、新田義孝（31 期生）、長尾輝夫（24 期生）、北垣裕之（42 期生）、普光江文江（12 期生）、山本篤良（26 期生）、戸田寮一（23 期生）、高木経吉（22 期生）、前田豊明（28 期生）、柴垣仁司（20 期生）、西 三千穂（30 期生）、栗山 要（1 期生）、三宅栄史（21 期生）、吉川千鶴子（24 期生）、孝橋利己（25 期生）、近本昌博（43 期生）、森友敏則（23 期生）、田中久隆（23 期生）、岸根秀明（36 期生）、西田 博（25 期生）、奥田和夫（10 期生）、奥田孝枝（14 期生）、中嶋則子（15 期生）、木村毅司（33 期生）、近本恭汜（15 期生）、山根正行（28 期生）、正木浩二（2 期生）、関口恵士（25 期生）、岡本昭治（31 期生）、岡本多恵子（31 期生）、西浦英子（24 期生）、芦田靖司（44 期生）、中野圭治（53 期生）、富垣淳生（16 期生）

訃 報

淡路市にお住まいの正木浩二さん（2 期生）が平成 30 年 4 月 11 日にご逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記（平成 30 年 12 月）

今回の支部だよりが平成最後のものとなります。平成 24 年に創刊号を発行してから 13 回目となりますが、よく続けてこられたと思います。10 期の加藤整先輩をはじめ、多くの同窓生の皆様のご理解とご協力のおかげであると大変感謝しております。

支部だよりに関するご意見・ご感想をお寄せください。また、住所・電話番号・職業等の変更があれば編集者まで必ずご連絡ください。

編集者：福井寛行（26 期生）

〒677-0038 兵庫県西脇市大垣内 44-2

TEL (FAX) 0795-22-1815 携帯 090-1022-2672

E-mail : hirokei-677@hera.eonet.ne.jp